京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町３０-２
ラボール京都５階
京都原水爆被災者懇談会気付
ＴＥＬ075-811-3203
ＦＡＸ075-811-3213
ＨＰ http://aogiri2-3.jp

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation *Hibakusha*(Atomic Bomb Survivors)

２０２３年２月１５日の例会の様子

２０２３年度年次総会のお知らせ　2
２０２３年度年会費お支払いのお願い　2
庄田政江さん　例会での被爆体験伝承・お礼のメッセージ　3
河野キヨ実さん　三方文子ちゃんへ　4
Kyoto Association of Second and Third Generation Atomic Bomb Survivors　5
安土の観音正寺で被爆者追善の碑を見つけた　米重節男　6
科学者、日本の海洋投棄計画に挑戦　7
被爆二世・三世の今とこれから　①　平　信行　１１
本・ＤＶＤ・映画・番組の紹介と交流　１７
「ルポ　アメリカの核戦略」、「ヤジと民主主義
SCRAPBOOK／「はだしのゲンで生き方学んだ～教材からの削除撤回要請」（毎日）　１８
「被爆者との対話　ＡＩで次世代へ」（中國）　１８
編集後記　１９
２０２３年３月の行事カレンダー　２０

2023年度年次総会のお知らせ

■日　時　2023年5月13日(土)　13時30分～16時30分

■会　場　ラボール京都第1会議室　＋　オンライン(ZOOM)

■記念講演　竹峰　誠一郎　明星大学人文学部教授

(仮題)グローバル・ヒバクシャ　終わりなき核被害を生きる人々
二世・三世への影響も含めて

中部太平洋のマーシャル諸島は、戦後アメリカの核実験が６７回も繰り返された島しょです。竹峰教授は長年に渡り、現地を何度も訪問され、フィールドワークによって被害に遭った人たちの実態に迫られてきた研究者です。

ご講演から、被爆二世・三世も含めて世界の核被害者の実態を知り、私たちの運動のめざす方向を深め、より確信のあるものにしていきたいと思います。

2023年度年会費お支払いのお願い

京都「被爆二世・三世の会」の会計年度は４月１日～３月３１日です。
２０２３年度会費のお支払いをお願いします。年会費は２，０００円です。

■　**振込でお支払いいただく場合は以下にお願いします。**
郵便振替　記号０１０７０－６　番号４７８７０
加入者名　京都原水爆被災者懇談会
通信欄に「二世・三世の会」会費とご記入下さい。

■　**京都銀行四条支店　店番１１１　口座番号４４７９６３**
口座名　京都原水爆被災者懇談会　振込いただいたらご一報ください。

■　**５月１３日年次総会の場でも受領いたします。**

- 複数年のお支払いもしていただけます。
- 年会費とは別に活動援助金（カンパ）のご協力もお願いしています。

庄田政江さん
1月18日例会での被爆体験伝承・お礼のメッセージ

１月１８日(水)の例会の場で、新しく広島市の被爆体験伝承者に認定された会員の庄田政江さんに、伝承の実演を披露していただきました。庄田さんにとって初めての経験、デビューの場でした。講話を聴かれたみなさんからの感想に対して、庄田さんからのお礼のメッセージです。

皆様

昨夜は河野キヨ美さんの被爆体験伝承をお聞きいただきありがとうございました。
最初に原稿を書き上げてから広島での３回の実習を終え認定されるまで、何度提出して書き直したことか・・・
使い慣れないパワーポイントを使う段階では写真使用の許可も得なければならず、原稿とスライドの訂正となるととても面倒でした。
それにコロナ禍で全ての予定が中止になり、私の心臓弁膜症の悪化と手術などを乗り越え、昨日の伝承発表に至りました。

広島での伝承実習では伝承仲間や平和推進課の担当者が参加していて、評価やアドバイスが中心だったので、昨夜のようなＺＯＯＭを交えた正式な発表は初体験でした。
昨夜は皆さんから「分かりやすい。」「感動した。」「河野さんの絵が素晴らしい。」など、私が一番求めていたお言葉を頂き、地道に努力したことがやっと報われたと嬉しく思いました。

私の原稿では河野さんの体験を通して建物疎開で犠牲になった子ども達を掘り下げ、暁部隊の救護活動を伝えています。伏線として資料館の展示を見るポイントと展示品への理解度を深める、また英語で発表した時、外国人に「子供達の犠牲」があったことを理解してもらうという点です。日本人が撮った貴重な写真にも重点を置いています。

この度河野キヨ美さんの体験と思いをみなさんに伝えることが出来たことで、河野さんから託された責任を果たす一歩が踏み出せたと感じています。
いままで私はこの原稿で思いがうまく伝わるのかなと半信半疑でしたが、これで自信を持って今後取り組んでいけます。皆様にお力を頂き心よりお礼を申し上げます。今後も良きアドバイスを頂ければ嬉しいです。

最後に河野さんが文子ちゃんへの思いをＮＨＫに投稿された文章を貼り付けます。涙無くして読めない文子ちゃんへの語りかけ・・・・これは補足資料として配布しようと思っています。また、河野さんの証言もお聞きください。
https://www.youtube.com/watch?v=Yg6haZDn0Qk
感想とかありましたら、私宛にメールを頂ければ河野さんにまとめてお送りします。

当日守田さんが機器の準備をして下さり、うまく配信でき録音も出来ました。心より感謝致します。

河野キヨ美さん

三方文子ちゃんへ

文子ちゃん、あなたが全身にガラスが刺さったまま逝かれた日から７０年もの月日が過ぎました。あの日は朝から蝉が喧しく啼いていました。「文子ちゃんが呼んどってじゃけん早う！！」と息を切らせながら近くの小母さんが来られました。あなたの家の乾いた庭に鳳仙花の紅い花が咲いていました。

被爆後、３日目にあなたは爆心地から３５キロ離れた家に戸坂に乗せられて帰りました。その頃のあなたは女学校３年生で同級生たちは広島の軍需工場に動員させられていて、あなた一人爆心地に近い県の保健婦養所に汽車で通っていましたね。１学年下の私は女学校が陸軍の被服廟になったので毎日兵隊さんの下着を縫っていました。被爆後漸く探し出されたあなたは折角家に帰っても医者も薬もなく、赤チンキを塗るだけです。開け放された座敷の中央に寝かされていました。親類の人やお母さん、おばあさんが心配そうにあなたを覗きこんでいます。熱が高いのか紅潮した顔であなたは周りの人に言葉をたくさん遺しましたね。「お母さん、泣かないで。私は髪が乱れたお母さんは見たくありません。文子はもう直ぐに死にます。死んだら私の墓の周りには美しい花を一杯植えてちょうだいね。お母さんは一人で兄さんと私を育ててくれて日本一のお母さんよ。」（彼女は幼い時父親と死別。母親は産婆(助産婦)をしながら生計を立てておられました）「ばあちゃん、泣きんさんな、おばあちゃんはよう転げるけんね。下駄をゆっくりと履くんよ！！転んで怪我をしんさんな…。」「きよみさん、小さい時から仲良くしてくれてありがとうね。学校に行ったら『三方文子は母校の発展と先生方の健康を祈りながら死んで行った。』と必ず伝えて下さいね。」と･･･ 熱が高くても水もありません。井戸水で手拭いをぬらして冷やすだけです。 冷たい飲み物も無く、死にゆくあなたに何もして上げることが出来ません。苦しかったでしょう。辛かったでしょう。あれから７０年目の夏が近づきます。

私は７１歳の時、広島ＮＨＫと広島市が「市民の描いた原爆の絵」の募集をされました。 それまでは直接被爆して血を流してはいないのだからと原爆のことは黙っていましたが、その時は８月７日、母と二人で姉を探して歩いた焼け野原の広島の街で見た恐ろしい光景を書き残しておかねばとつよく思い、中学生の積み重ねられた屍の絵を描きました。 それがきっかけとなって「あの日を忘れない」と題して絵日記のような絵本を出版しました。その絵の中にあなたの事も書きました。

今その絵本を使って平和学習の生徒たちに被爆証言をしています。２年前（２０１３年）と４年前その絵本をもって米国にも行きました。ミズーリ州立中央大学のヘンドリックホールで大勢の人にあなたの映像を見せました。 画面のあなたに呟きました。「文子ちゃん、あなたを到々米国に連れて来ましたよ。皆さんが涙を流しましたよ。」とその時、画面のあなたが微笑んだように私には思えました。 最近は平和学習に来広の生徒さんたちに一生懸命伝えています。 お腹一杯ご飯も食べられず、何も楽しいこともなく、お国のためだと働いて爆死された十代の動員学徒たち、私と同年代の人達のことが忘れられません。戦争さえなかったら、原爆にさえ遭わなかったらと無念です。

それにしても人間は死を前にして心が研ぎ澄まされるのでしょうか？ わずか１６歳で多くの言葉を遺された文子ちゃんの臨終の場面を思い出すとき、あなたが生きてくれていたら、どのような人生を生きられただろうかと悔しいです。 私も８４歳になりました。命の残り時間は少なくなりましたが、せめて一人でも多く平和学習の生徒さん達に、あたりまえのような平和な今の生活が多くの人達の犠牲の上にあるということを考えて欲しいと話しています。私は文子ちゃんの分まで長く生きさせて頂きました。もう少し時間を下さい。 小さな核廃絶の声や平和への希いがいつか大きなうねりになることを願い、希望を失わず、語り続けたいと思っています。

（２０１５年にお寄せいただいたお手紙です）

◆Kyoto Association of Second and Third Generation Atomic Bomb Survivors

京都「被爆二世・三世の会」ホームページ『京都「被爆２世・３世の会」のご案内』の英訳です。
山根和代さんに訳していただきました。今後、随時多言語発信をすすめていきます。

The Kyoto Association of Second and Third Generation A-bomb Survivors is a group of people who have inherited the experiences and lives of their parents and grandparents who were atomic bomb survivors in Hiroshima and Nagasaki, and who act with the common desire for the abolition of nuclear weapons and the eradication of nuclear energy damage. The Association is based on the principle of working together not only with second and third generation A-bomb survivors, but also with a wide range of people who agree with our aims and policies. To this end, we invite all those who agree with our movement, even if they are not second- or third-generation A-bomb survivors, to join as members and work together with us.

The Kyoto Association of Second and Third Generation A-bomb Survivors is now working with the following aims.

(1) We aim to help second and third generation A-bomb survivors overcome their anxieties about their lives, minds, bodies, and livelihoods, so that they can lead healthy and fulfilling lives.
(2) We are working to hear the experiences of A-bomb survivors in Hiroshima and Nagasaki, compile their testimonies, and disseminate them to society and pass them on to future generations.
3) We aim to understand and spread the reality of the victims of the Fukushima nuclear power plant accident, and to work together for complete relief and thorough measures to be taken.

We regularly publish the Kyoto Association of Second and Third Generation A-bomb Survivors Newsletter (in Japanese) to share information and experiences related to the above, to promote mutual exchange among members and supporting members, and to encourage each other in our efforts.

If you agree with our purpose, please join us as a member.
The membership fee is 2,000 yen per year.
Regular meetings are held once a month. (General meeting is held once a year.)
We will send you a newsletter. (Currently, the newsletter is published monthly.)
If you use e-mail, you can use our mailing list to send out information and communicate with us on a daily basis.
Please contact us by phone, fax, or e-mail if you wish to join or if you have any questions.

Contact information

Kyoto Association of Second and Third Generation A-bomb Survivors
c/o Labol Kyoto 4F: 30-2 Mibu-Sennen-cho, Nakagyo-ku, Kyoto City, 604-8854, Japan
TEL: 075-811-3203.　FAX: 075-811-3213　Email: web@aogiri2-3.jp

安土の観音正寺で被爆者追善の碑を見つけた

米重節男（向日市）

滋賀県の安土（近江八幡市）には、織田信長の築いた安土城があったことで有名です。その安土城が作られる前は、近江源氏佐々木（六角）氏の拠点であった観音寺城が繖山（きぬがさやま）に築かれていました。現在ではＪＲ東海道線をはさんで、西側・琵琶湖近くに安土城跡が、東側に繖山の頂上付近に観音寺城跡があります。この観音寺城と連なって西国３２番札所の観音正寺があります。

観音正寺で被爆者が建立した石碑を見つけました。碑文によると、広島で被爆した山口県の方が、娘の子授かりと妻の大病平癒を願って、西国・四国を歩き巡礼して願いがかなったお礼に、石碑を建てたとあります。２m以上はあると思われる石碑です。裏面には信仰心の篤い建立者の想いが、被爆者と被爆二世の苦難、原爆犠牲者への追悼とともに刻まれていますので紹介します。

昭和二十年八月六日、広島に原子爆弾が投下され、私はその救護隊としてまだ投下間もない広島の町に入りました。女や子供までも無差別に殺戮された広島の地獄のような有様は、未だに脳裏に焼き付いて忘れる事ができません。

終戦後、広島の悲しい記憶を片時も忘れることなく日本の復興を願い、今日まで一心不乱に働いてまいりました。やがて、娘も嫁ぎ一安心。しかし、なかなか娘に子が授からず、そのことで悩む娘の事を思うと辛く、子授け祈願の為に歩き巡礼を発願いたしました。有難くそのご利益をいただき、子を授かる事ができました。

その喜びも束の間、妻が心臓の不調を訴え医者の診察の結果、余命幾許も無いとの事、私は再び巡礼の旅に出かけ、娘の子授け祈願の時と同じく、徒歩で西国四国へ当病平癒の祈願巡礼をいたしました。観音様やお大師様のご利益をいただき、不思議と妻の病状も快方へと向かい一命を取り留める事ができました。

その後、家運隆昌と子孫繁栄の末広がりを願い西国、四国とも三十八カ度巡礼いたしました。このありがたいご利益への感謝と巡礼信仰の功徳の証、そして何よりも広島、長崎の原爆犠牲者の供養の為にこの碑の建立を発願いたしました。

碑の表面
左手前の筒状の石には巡礼時に持参した仏具が納めてある。

為広島･長崎原爆犠牲者之霊位追善
為加藤家先祖代々之霊位追善
南無大慈大悲観世音菩薩
南無大師遍照金剛
願以此功徳　善及於一切
我等与衆生　皆供成佛道

平成二十一年三月吉日
願主　山口県山陽小野田市恵比須町
　　加藤博基
　　加藤露子

碑文が書かれた裏面

科学者、日本の海洋投棄計画に挑戦

Nic Maclellan（ニック・マクレラン）

アイランズビジネス２０２２年１２月号の記事（P27-29）を、翻訳ソフトを使って和訳しました。

山根和代（右京区）

２０２３年初頭、日本は福島第一原発から排出される１３０万トンの放射性廃液を太平洋に投棄を開始する予定である。地元の漁師、海苔養殖業者、福島の住民から猛烈な反対を受けており、この核廃棄物投棄計画は、また太平洋諸島フォーラムや中国、韓国などの近隣諸国からも反対されている。

日本の原子力規制委員会は、廃棄物を投棄するためのパイプラインの建設に最初の許可を出した。しかし、科学者の間では、放射性同位元素を含む１００万トン以上の水を長期的に太平洋に投棄することの危険性を訴える声が高まっている。

日本政府は、廃水処理施設は健康にも環境にも安全であると繰り返し発表している。今年初め、フォーラムの指導者たちは、この計画を阻止するために、５人の科学者からなる独立した科学委員会を設立することを発表した。

昨年８月、専門家委員会は、このプロジェクトに関する詳細な懸念事項をまとめ、太平洋諸島フォーラムに調査結果を提出した。プロジェクトは延期されるべきであると主張している。フォーラム加盟国政府へのメモの中で、専門家委員会は次のように結論付けている。科学者委員会は、「生態系への影響と生物における濃縮に関する日本の提案は、深刻な欠陥がある。影響を推定するための健全な根拠を提供していない」と結論づけた。

ジャパンタイムズに寄稿した５人の科学者は、次のように指摘している。

「福島第一原発からの汚染物質の放出には少なくとも４０年、予想される蓄積を含めると数十年かかるだろう。このことは、日本の漁業関係者だけでなく、太平洋地域全体の人々や国々にも影響を与えることになる。この問題は、国境を越えた、世代を超えた問題として考える必要がある。

科学者たちは、環境と人間の健康への潜在的な影響を評価するための情報が不十分であり、現時点で許可を出すのは時期尚早だと主張している。「この問題の科学的・生態学的側面を研究した結果、我々は汚染水の放出の決定は、経済的、環境的、人的被害を評価するための完全なデータが揃うまで無期限に延期され、タンク水に関する他の選択肢を再検討すべきである」と結論づけた。

フィジーで開催された２０２２年太平洋諸島フォーラム首脳会議で、首脳は「核汚染の潜在的脅威が太平洋や人々の健康や安全保障、将来の見

通しに及ぼす重大性に強い懸念を抱いている」ことをあらためて表明した。そして国際的な協議、国際法、独立した検証可能な科学的評価を確保することの重要性を再確認した。

先月、フォーラム事務局長のヘンリー・プナ氏は、海洋廃棄物投棄の開始を正当化する科学的データはまだ不十分であるという地域の懸念を強調した。「専門家は、日本が間近に控えた太平洋への放出を延期することが必要であると助言している」とプナ氏は述べた。その助言に基づき、独立した専門家委員会が現在のデータギャップを考慮し、排出の安全性をさらに評価し続ける間、私たちのメンバーは排出以外の選択肢を検討するよう勧めた。その一方で、独立した専門家委員会は、現在のデータギャップを考慮した上で、放流の安全性をさらに評価し続ける。

福島における汚染

この危機は、２０１１年３月の沖合地震により、福島第一原子力発電所の３基の原子炉が浸水したことに端を発している。１４メートルの津波が海岸を襲い、洪水は原子炉の電源と冷却システムに甚大な被害をもたらした。炉心の一部が溶融し、燃料棒が鋼鉄製の格納容器を突き破って原子炉建屋のコンクリート底部に達して、甚大な被害をもたらした。東京電力は１０年以上前から、溶融した燃料棒から噴出する熱を水で冷却してきた。この高濃度の放射性物質を含む冷却水は 、敷地内にある１０００基以上のタンクに貯蔵されている。毎日１００トン以上の汚染水を回収しているため、貯蔵スペースが足りなっている。

これに対し、日本は２０２３年４月から、この放射能に汚染された排水を高度液体処理システム（ＡＬＰＳ）を通過させた後、太平洋に放出することを計画している。このろ過システムは、海に流す前に汚染水からほとんどの放射性物質を除去することになっている。

東京電力と日本の納税者は、被災した福島第一原発の廃炉に伴う財政負担のために、大きなプレッシャーにさらされている。２０１１年以降、原発の清掃、敷地の除染、事故の影響を受けた人々への補償に１２兆円（８２０億米ドル）以上が費やされた。日本政府はすでに１０．２兆円（７０億米ドル）の無利子融資を東京電力に提供している。しかし１１月、日本の会計検査院はこれらの融資の返済が遅れることを明らかにし、東京電力の継続的な財政危機を浮き彫りにした。

多くのアナリストは、東京電力が膨大な水の貯蔵コストを解決するための最も安価な選択肢として、海洋投棄を検討していることを懸念している。中国海洋大学の Benshuo Yang 氏と Haojun Xu 氏は、「他にも放射性廃液を処理する方法がある。しかし、日本は最も費用対効果の高い、しかし最も有害な方法を選択したのである。」と注意している。

国際的な懸念を無視して、海洋投棄計画の作業は急ピッチで進められている。東京電力は８月、放射性物質を含む処理水を海に放出するためのインフラ整備に着手した。海底トンネルや貯蔵タンクから処理水を移送するための複合パイプなどである。

日本は太平洋島嶼国への主要な援助国であり、フォーラム加盟国の中には、重要な開発パートナーを公に非難することに慎重な国もある。オーストラリアは福島原発の燃料となるウランの多くを供給し、ＡＵＫＵＳ協定に基づく原子力潜水艦の購入も計画している。しかし、島嶼地域は５０年にわたる冷戦下の核実験による放射能汚染に今も苦しんでいる。地域の反核感情は強く、東京が核廃棄物の投棄計画について協議するという過去の公約を破ったことを、多くの人が覚えている。

科学者たちが疑問を投げかける

日本との外交を強化するため、太平洋諸島フォーラム事務局は、このプロジェクトに関する情報を求め、地域の政策に反映させるために、科学者からなる専門家委員会を設置・任命した。５人の専門家チームは、海洋環境、原子力放射線、原子炉工学、海洋学などの幅広い専門知識を有している。ウッズホール海洋研究所のケン・ビューセラー博士、アデレード大学放射線研究・教育・イノベーションセンターのアントニー・フッカー所長、モントレーのジェームズ・マーティン不拡散研究センターのフェレンツ・ダルノキ・ヴェレス博士、ハワイ大学マノア校ケワロ海洋研究所長のロバ

ート・リッチモンド博士、エネルギー・環境研究所(ＩＥＥＲ)のアルジュン・パヒジャニ所長は、海洋環境、原子力放射線、原子炉工学、海洋学に関する豊富な専門知識を有している。

＊＊＊＊＊

Arjun Makhijani 博士によると

「十分な情報を持っているのか？測定は適切に行われたのか？ろ過システムの容量が液体の量に対して十分で、放射性核種の濃度が十分に低くなることを知っているのか？何度も濾過する場合、どれくらいの時間がかかるのか？これらの疑問に対する明確な答えはなかった。」

＊＊＊＊＊

２０２２年を通じて、専門科学者委員会は東京電力や日本の関係者と会合を重ね、福島のタンクに保管されている放射性核種の種類に関するデータをある程度入手した。国際原子力機関（ＩＡＥＡ）も、昨年５月にラファエル・グロッシ事務局長が福島第一原子力発電所を訪問し、７月にはフォーラムでブリーフィングを行うなど、議論に貢献している。元原子力技術者でＩＥＥＲの原子力安全専門家であるアルジュン・マキジャニ委員は、「重要なデータの欠如は決定的な問題だ」と指摘する。

「科学的な観点から見ると、私たち専門家委員会は、この巨大な作戦を計画するには情報が本当に不十分だと感じていました」とマキジャニ氏は Islands Business（訳者注：出版物）に語っている。「貯蔵タンクの放射性核種のほとんどがサンプリングされていないため、作業を進めるには十分な情報がないことを早い段階から認識していました。」と。

「時間が経つにつれて、私たちの不安は強くなっていきました。測定はきちんと行われているのだろうか？液体の量に対して、ろ過装置の容量が十分で、放射性核種の濃度が十分に低くなることを知っているのだろうか？何度も濾過する場合、どれくらいの時間がかかるのか？」これらの疑問に対する明確な答えはなかった。

東京電力や日本当局と会談した専門家委員会は、貯蔵タンク内のさまざまな放射性同位体を正確に採取していないこと、タンク底の汚泥の放射能汚染レベル、トリチウムなどの元素が広大な太平洋でどのように拡散・希釈されるかを推定するために使用したモデルなどについて、一連の懸念を表明した。

アルジュン・マキジャニさんにとって、日本政府は各タンクからどの範囲の放射性核種が検出されるかを確認するのに十分な情報を提供していない。太平洋諸島フォーラムと共有されているデータには、６４の放射性核種のうち９つしか含まれていない。マヒジャニ氏は、「日本当局によれば、大半の放射性核種は測定されていない」と述べた。「要約すると、ほとんどのタンクは一度もサンプリングされたことがない。サンプリングは、タンク内の水や貯蔵された時期を代表するものではありません。タンクの中の水の測定は正確なのでしょうか？その答えはノーです」。

トリチウムとその他の放射性核種

廃水で測定された放射能の大部分は、トリチウムと炭素１４という２つの同位体によるものである。しかし、現在のデータによると、タンク内にはストロンチウム９０、セシウム１３４、セシウム１３７、コバルト６０、さらにはテルル２１７（半減期の短い核分裂生成物で、何年も保管されていれば存在しないはず）など、他の高放射能同位体が複雑に混在していることが分かっている。

専門家委員会は、トリチウムが少ないタンクはストロンチウム９０が多く、その逆もあると報告し、「他の放射性核種の濃度が一定であるという仮定は正しくなく、真のリスク要因を評価するにはすべての放射性同位体を完全に評価する必要がある」と結論付けている。

もう一つの問題は、水中の粒子が時間の経過とともに貯蔵タンクの底に沈殿し、汚染された汚泥が発生することである。日本の当局は、２０１１年の事故直後の数年間に冷却水を満たしたタンクに、汚染された沈殿物が含まれていることを確認している。マキジャニは「スラッジのサンプリングは当時もその後も行われていない」と指摘する。タンクから水を汲み上げる際に、これらのスラッジがどれだけ攪拌され、ろ過システムを複雑化させるのか。この問題は解決されていない。

東京電力は、ほとんどの同位体をフィルターで

除去する一方、大量のトリチウムを太平洋に投棄する計画で、海中での急速な拡散と希釈に依存している。しかし、多くの科学者は、海水中のトリチウムの希釈を測定するために使用されているモデルに対して批判的である。

日本の計画は現在、自然界に存在するトリチウムを飲料水として安全に摂取できる量に関する国際基準を用いたモデルに基づいている。これに対し、環境問題評論家は、トリチウムや他の放射性同位元素が海の堆積物や魚などの海洋生物に蓄積されることを懸念している。マキジャニ博士によれば、専門家委員会はトリチウムの飲料水基準案が海洋生態系に適用されないことを懸念しているとのことです。

「排出されるトリチウムの濃度は、自然界や歴史的な核実験によるバックグラウンドレベルの数千倍になり、それを何十年も排出することになる」と彼は説明した。マキジャニ氏は、アイランズ・ビジネス誌に「堆積物や移動する植物や動物の生態系の評価をしなければならない。そのいずれも行われていない。東京電力の環境影響評価では、すべての生物に存在するトリチウムの生物濃縮は考慮されていない。海洋環境における生物濃縮の問題は、声明の中で完全に無視されている。」と述べた。

漁業への脅威

太平洋地域の政府や企業は、日本や太平洋地域の漁業に対する国境を越えた風評被害について懸念している。海洋環境に対するこの長期的な脅威は、ホノルルにあるハワイ大学マノア校の専門家パネルメンバー、ロバート・リッチモンド氏も同じように語っている。

「これはまさに国境を越えた問題です」と、リッチモンド博士は昨年５月に述べている。「魚は政治的な境界線を気にしないし、海の中の放射性物質や汚染物質も同じだ。太平洋諸島フォーラムのメンバーが、これは追加情報が必要な問題であると認識したことを、私は本当に高く評価します。」

リッチモンドは「世界の海は、私たちが呼吸する酸素の５０％以上を供給し、現在および将来の世代に経済的、生態的、文化的価値のある多様な資源を提供し、すべての人々が共有している。放射能に汚染された水を太平洋に放出することは、国境を越え、世代を超えて影響を及ぼす不可逆的な行為である。そのため、どの国も一方的に実施するべきではないのである。」と述べている。

２０１１年の福島原発事故の直後、海洋科学者たちは、太平洋クロマグロが北太平洋全域に放射性核種を運んでいることを確認した。２０１２年のスタンフォード大学の研究では、福島に関連する汚染の痕跡を持つマグロがアメリカの海岸で発見されたと報告され、次のように指摘されている。「太平洋クロマグロは、日本の特定汚染源から遠方の生態系に放射性核種を迅速に運ぶことができ、放射性核種の輸送媒体としての回遊動物の重要性を示している。」と指摘している。

太平洋教会協議会、太平洋諸島ＮＧＯ協会、グローバル化に関する太平洋ネットワークなどの教会や市民社会団体はいずれも、提案されている廃水投棄計画を批判し、主要な開発パートナーとしての日本の外交的評判に悪影響を及ぼした。昨年５月に林芳正外務大臣がフィジーを訪問した際、地域団体は海洋投棄計画は海洋汚染の防止に関するロンドン条約などの国際協定に違反すると主張した。市民社会の共同声明は、「私たちは、太平洋の人々の健康、幸福、そして将来の安全のために、太平洋に核廃棄物を放出することが正当化されるシナリオはないと信じている」と結論を出した。

被爆二世･三世の今とこれから　①

～京都｢被爆二世･三世の会｣の現状に即して～

2023年1月28日 2023年新春関西原水協学校／講義2　　平　信行（南区）

１月２８日、関西原水協学校において表記の講演を行いました。その内容を、今号と次号の会報に２回に分けて掲載します。

尚、音声記録からの文字起こしは小山美砂さんにご協力いただきました。

■自己紹介

最初に自己紹介します。私は広島県の出身で、１９５１年（昭和２６年）、戦争が終わって６年後に生まれています。私の場合、父親、母親ともに広島で被爆しておりまして、父親は爆心地から５ｋｍ、暁部隊のあった、宇品の港に停泊していた輸送船の甲板の上で被爆しています。母親は広島市内の江波というところで、地方気象台のある場所ですけど、そこの近くで、４ｋｍで被爆しています。

被爆二世といいますと、親からどのように被爆体験を聞いているのか、ということが結構私たちの間では話になるのですけど、中には親から全然話を聞いてこなかったとか、あるいは親が亡くなって遺品整理をしていて親が被爆していたことを初めて知ったとか、そうした人たちも決して少なくはない。私の場合は、私たち二人兄弟ですが、幼い頃から両親ともに、戦争体験とか被爆体験をよく話をしてくれた親であり、そういう環境で育ちました。６０歳で定年退職しまして、今７１歳ですけど、そのあと、縁があって被爆者支援をする活動に加わり、その中で「二世・三世の会」を立ち上げてきました。

■｢被爆二世･三世の会｣に参加してくる人たちの思いは多様

京都「被爆二世・三世の会」についてお話させて頂きます。

京都の「二世・三世の会」は、１０年前、２０１２年１０月２０日に結成しています。その前１年間ほどかけて準備をして、当初８人くらいのメンバーで呼びかけて、それで立ち上げに至りました。会の母体は、京都の被爆者のみなさんの会である、京都原水爆被災者懇談会です。これがあったお陰で、今の「二世・三世の会」も立ち上げることができました。

結成時の会員は３７人ほどでした。京都の場合、なぜ「二世・三世の会」がこの時期に立ち上がったのかという、その動機について簡単に触れておきます。これは京都に限らない話なのですけど、被爆者の組織あるいは運動というのは、高齢化が進む中で、これからこの後、先々どうしていこうか、というのが、全国共通の問題、課題になっています。跡継ぎをなんとかしたいという議論の中で、二世・三世の人たちにもそれを担ってもらおうではないか、というのが、被爆者の会の皆さんの中で出ていまして、そういう背景があって、じゃあ「二世・三世の会」ができるならぜひ作っていきましょうよ、というような経緯から、京都の会はできていったということです。

最初、３７人のメンバーが集まって、京都「被

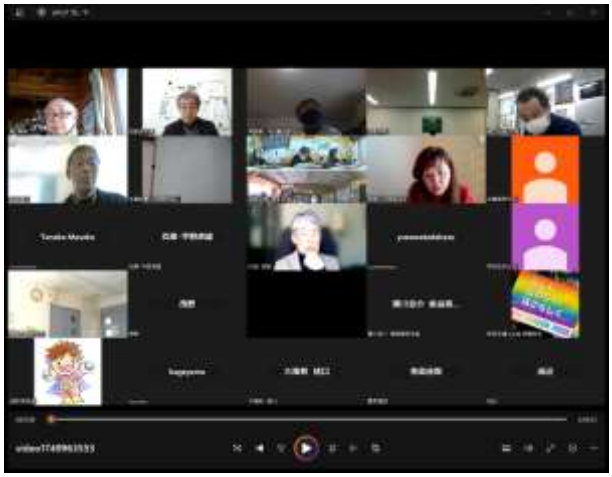
爆二世・三世の会」はできました。その時に集まった人たちの思いというのは、何を期待して集まってきたのかということを言いますと、人それぞれに多様なのですけど、だいたい５点くらいにまとめられるのではないかと思います。

一つは、自分たちの祖父母、あるいは親も含めた被爆者の体験を掘り起こして社会に発信し、後世につなげていきたい。そういう思いから、「二世・三世の会」に参加をしてきた、という人たちがまずあります。二つ目は被爆者のみなさんが長年とりくんできた核兵器廃絶の運動に私もぜひ貢献をしていきたいという思いから参加してきた人たち。三つ目は「被爆二世・三世」の健康問題含めた諸問題を、当事者同士で共有し、なんとか対策を進めていきたい。さらには健康対策のための有効な情報も得ていきたい、こういう思いもありました。四つ目は、前年の２０１１年３月に、東日本大震災、東電福島第一原発事故が発生していて、放射能汚染が大問題になった。そういう中で、脱原発、原発事故に伴う放射能対策に取り組みたいという思いから参加してきた人もいます。五つ目ははっきりとしたテーマとか課題はないのだけれど、とにかく自分は二世である、三世である、というアイデンティティを持つ者同士でつながっていきたいという思いから、参加してきた人たちもあります。

今でも会員は増え続けているのですけど、新しく参加されてくる人たちがどういう思いで参加されてきているのか、というと、だいたいこの５点のどれかに該当されていて、その思いは多様である、ということになります。

結成から１０年経ちましたけど、いま私たちの会の会員は被爆二世が７３人、三世が１１人、それから二世でも三世でもないが、思いを一つにして一緒に活動していきたい、というその他の人たちも会員になってもらっていて、そういう人が３９人いまして、合計１２３人の「二世・三世の会」になっています。

京都に住んでいる二世・三世の人たちがもちろん中心なのですが、それ以外の、ネット社会ですから、京都以外の人も簡単につながりあえるということで、宮城県とか滋賀県、大阪府、和歌山県、香川県、広島県からも参加されています。アメリカのシカゴに住んでいて、ぜひ参加したいということで一緒に活動している方もいます。二世の会員は７３人ですけど、例えば、京都の現在の被爆者健康手帳を持っている被爆者は７４４人。被爆者の人数からすればその１割くらいが京都の会に参加しているのかなと思います。



■10年間の活動を経て、今最も重視したいこと

この１０年間、どんなことをとりくんできたのかをかいつまんで紹介します。いろんなことをやってきています。

一つは被爆体験の継承をして、それを社会にもきちっと発信していくとりくみです。京都に住まわれている被爆者の方を中心に、被爆体験の聞き取りをし、それをまとめて社会に発信していく、後世につなげていくとりくみを１０年間やってきました。２０１３年からはじめてこれまでに１００人近い、９７人の証言をまとめています。私たちが重視したのは、どうしても被爆の体験といいますと、８月６日あるいは９日当日のことについてお話されることが非常に多いのですけど、もちろんそれも大切なのですけど、それで全てが終わるわけではなく、その方の人生最後の日を迎えるまで、人生全てが被爆者の体験である、としてきました。頑張って生きてきた、被爆者として生きてきた人生そのものを被爆体験としてしっかり語っていくことを基本的なこととして聞き取りをしてきました。せっかくこのようなとりくみをしてきましたので、それを本にまとめて出版もしていこう、ということで、『語り継ぐヒロシマ・ナガサキ』というタイトルの本にして上巻と下巻にまとめて、２０２２年度と、２０２１年度、二

回に分けて出版しております。

二つ目は、二世・三世の健康問題の取り組み。具体的にはこの間、２回にわたって健康実態アンケート調査なども行ってきています。これは後程詳しくお話をさせて頂きます。

三つ目は、脱原発運動への参加と原発事故被害者支援です。具体的に言いますと、原発賠償京都訴訟という裁判闘争が闘われていますが、これは福島から京都に避難されている方の損害賠償を求めた裁判。その原告を支援する会にも加わっていて、私が支援する会の共同代表にもなって、継続的な運動の支援を続けてきています。

４点目に国内外の核被害者との連携と相互支援ということで、核の被害者は国内外含めて非常に幅広く多様にあるわけですが、できるだけその人たちと手を結びあって運動ができるようにしていこうというスタンスをとってきました。第一にはやはり、広島・長崎の被爆者のみなさん自身もそういう対象になる。広島・長崎の被爆者の皆さんと一緒に、被爆者の支援救済をはかっていくとために、具体的には、ノーモア・ヒバクシャ近畿訴訟の運動を一生懸命やってきました。最近では広島の「黒い雨」被害者の応援もやってきています。それから太平洋の核実験被害者、ビキニの被害者等ですけど、この人たちの応援をしてきました。『放射線を浴びたＸ年後』という伊東英朗監督が作られた映画が、第一弾、第二弾とできていて、今第三弾が制作に中です。こういうものの、上映運動などを通じてやってきています。

原発労働者については私たちが何か運動できているわけじゃないですが、問題意識としてはしっかり持っていこうということでやっています。参考までに紹介ですけど、原発で仕事をされているみなさんには放射線管理手帳が交付されている。自らが浴びる放射線の管理をしっかりやるようにとなっているそうなのですけど、手帳を持っている方が６９万人を超えた、２０２１年3月末現在、と聞いています。６９万人というのは、ほぼ、広島・長崎の被爆者と同じ数ですので、膨大な放射線リスクを抱えた人たちがいま現在も実際に仕事をされているという事実はしっかり見ていく必要があると思っています。

それから会員の中にはアメリカ在住、シカゴに住んでいる会員もいると言いましたが、そういう方からはアメリカの情報を提供していただいたりとか、日本にいる会員がアメリカとかに視察旅行に行った場合など、現地のアメリカの核被害者との交流なども行ってきています。

５点目は、国内の話ですけど、全国の二世・三世のみなさんとの連携、ネットワークを広げることも継続的にやってきました。私たちの会は、京都「被爆二世・三世の会」の会報を毎月発行しています。それを我々の中だけで共有するのではなく、全国の「二世・三世の会」の人たち、会はないけど個人として存在されている「被爆二世・三世」の方たちにも、送り届けて情報交換をするようにしてきています。

それから近いところでは、広島・岡山・京都、この三つの地域の「被爆二世・三世の会」で合同学習交流会というのを過去４回ほどやってきています。今はコロナ発生のために交流会できなくなっていますが、コロナが落ち着けば再び復活させたいと思っています。

１０年間のとりくみを経て、現在の私たちの到達点なのですけども、１０年間の試行錯誤、紆余曲折を経て、いずれの課題も大変重要で大切にしなければならないことは間違いないのですけども、その中でも特に二世・三世の健康対策が最も中心的な課題になるはず、ならねばならないのではないか、というのが今私たちが持っている到達点です。それはなぜなのかと言いますと、一つは他の課題は、これは極論すれば二世・三世じゃなくても、担わなければならない、頑張ってもらわなければならない課題なわけですね。核廃絶問題も原発問題も。しかし、二世・三世の健康問題は、これは私たち自身の、当事者の問題であって、他の誰かに委ねることはできない。我々自身が頑張らんとあかん課題。そういうことから、中心的課題にあげています。もう一つは二世・三世の健康問題は、イコール、放射線の世代を超える影響、はっきり言えば遺伝的影響問題です。これは、広島・長崎の被爆者の二世・三世に限らない、あらゆる世界中の核被害者に共通する、世代を超えた核被害の問題であって、そういう点では、全世界に共通する基本問題になる。そこに私たちはアプ

ローチをしていく必要があるし、とりくむべき課題になるのじゃないかと。そういう二つの点から、最も重視すべき課題として、設定してきているわけです。

■全国の被爆二世･三世の人たち

全国の二世・三世の組織について簡単に触れておきたいと思います。京都の「被爆二世・三世の会」の話が今日は中心ですから、全国のことを私たちが詳しく知っているわけじゃなくて、知らないことの方が実は多いかと思います。ですから簡単に触れざるを得ないわけですけど、参考までに聞いて頂きたいと思います。「二世・三世の会」というのは全国にどれくらいあるか、を私たちは正確には実は知りません。参考までに日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）という組織が、全国の被爆者のみなさんの組織ですけど、そこに聞いたところ、ちょっと古いのですけど、２０１７年当時の調査で、全国で二世の会、あるいは二世の支部があるというところは１７都道府県ほどあったそうです。ですから、都道府県の数からすれば圧倒的多数の都道府県に、まだ「二世・三世の会」とか、二世支部などは存在していない。個人の二世・三世の人はもちろんいらっしゃるにしても、そういう状況かなと思います。

それから、この１７都道府県の「二世・三世の会」がいつごろできたのかということですけど、多くが、京都と同じように２０１１年とか、２０１２年頃に発足をしている例が非常に多いのですね。その理由は正確には分かりませんが、いずれにしてもまだそんなに長い歴史を持っているわけでは決してないということです。日本被団協の中には、二世委員会というものが構成されていて、定期的な会議なども行われていると聞いています。

それから最近、被爆二世の集団訴訟の判決が出た、というニュースをお聞きになった方もあるかと思いますが、これは私たちとは直接は関係のない、全国の被爆二世団体連絡協議会、通称「二世協」と言っていますけど、そういう人たちのみなさんがやられてきた裁判です。そういう団体もあるということを、今日は紹介にとどめておきたいと思います。

■被爆二世･三世に対する国の「援護施策」の略史と現状

次に被爆二世対策や援護施策に関わる略史に、主要な点だけ触れておきます。

私たちの問題はさっき言いましたように遺伝的影響の問題が、非常に大きなテーマになる。それに関わることでいえば１９４７年にアメリカによって原爆傷害調査委員会、通称ＡＢＣＣというのが、広島と長崎に設置されて、そこがスタートになっています。このＡＢＣＣというのは被爆者の健康状態について、もちろん調査しているのですけど、非常に重視されたのは、ある意味でも最も重視された調査というのは、まさに私たちのテーマである遺伝的影響に関する調査であって、設立当初から５項目の調査が、このＡＢＣＣで行われているのですね。致死や新生児死亡や低体重、異常や奇形の増加、等々です。詳しいことは私も勉強不足で時間もありませんので、そういうことがあったということだけ止めますけど、そういう調査の結果、結論として、統計的な有意差は認められなかった、ということにされまして、それが被爆二世施策に関する基本になってきた、という歴史があります。

１９６６年に日本被団協が国家補償の立場に基づく被爆者援護法の制定を国に迫る「原爆被害の特質と被爆者援護の要求」、通称『つるパンフ』というものを発表して、その中で二世に対する基本的な姿勢を明記しています。《被爆二世に対する放射能障害の遺伝的影響がどの程度明らかにされているかは現在正確には把握されていない。しかし二世に対する遺伝的影響が絶無であることが証明されない以上、親の原爆被爆と関係ないと証明できる場合を除き、二世の身体異常についても被爆者としての医療保障が与えられるべきである。この立場で、保護者あるいは本人が申請したときには、二世に対して被爆者健康手帳を交付すべきである。》これがその内容です。被爆者団体としての非常に明確な、被爆二世に関わる態度がこの時明確立されたということになります。

ＡＢＣＣは１９７５年、その後日本の予防衛生研究所と合体して再編され、現在の放射線影響研究所、通称放影研が設置されて現在に至っていま

す。

１９７６年には東京都議会で近藤信好議員による被爆二世差別発言。優性保護的な見地から、被爆者が子どもをうまないよう行政指導すべきである、というとんでもない偏見と差別による発言があり大きな問題になっています。抗議や非難も集中した、という歴史も残されています。

１９８０年に、厚生省が、原爆被爆者二世の健康に関する調査研究を強行実施したということがありまして、これが、今現在の被爆二世健康診断という、厚生労働省の唯一の被爆二世施策になっています。そのスタートが１９８０年に初めて行われています。１９８２年に、厚生省がその調査に基づいた結果、「遺伝的内容は認められない」ということを公表しようとしましたが、その内容に重大な問題があるということで、当時の当事者のみなさんの反対によって、公表そのものは頓挫しています。

それから１９８９年に、当時の野党６会派、社会、公明、共産、連合参議院等々によって、被爆二世を含めた援護法案が共同提出されています。被爆者に対する援護施策は、各条文において定められているのですけど、その後で、第１６というところで、被爆二世または被爆三世から申し出があった場合には、その者に対して第五の例により・・・・・・健康診断を行うものとする、ということが明記されています。それから第十条では、被爆二世または被爆三世で、原子爆弾の障害作用に起因する疾病にかかっている旨の都道府県知事の認定を受けたものは、第二に掲げる者とみなしてこの法律を適用すること。要は二世・三世についても、被爆者と同じ援護施策を、従来の法に基づいてとるべきである、とらなければならない、というのが、当時の野党６会派の提案法案として出されました。実際に参議院でそれが採択されたという歴史があります。ただ残念ながら、当時の政党間の力関係で、参議院では採択されたが衆議院では審議未了で、自民党が多数であって、廃案になっている。こういう歴史を経て、今日に至っているわけです。

それから２０００年代に入って、２０１６年以降、日本被団協が厚労省に対する要求交渉を毎年２回やっているわけですけど、その中では被爆二世の代表も参加して、被爆二世固有の要求を厚生労働省、国に対して要求し続けています。先ほどちょっと紹介した二世協による集団訴訟は、昨年、長崎地裁の判決があって、今度広島地裁でも２月７日に判決が出るという予定になっています。

歴史の最後のところでは、２０２１年に放影研が、過去、１９４８年～５３年当時の５項目の調査について、もう一度解析を行って、あらためて見解を公表する、ということになっています。しかし、結論は同じであって、被爆二世と被爆二世ではない子どもたちとの間の、比較においては有意なレベルの差は存在しなかった、ということが述べられています。むしろ、当時は原爆放射線は細胞への直接的影響を引き起こすだけでなく、貧困などの社会的要因を引き起こしそれも先天性異常や周産期死亡のリスクになったのではないか、と。要は戦後は衛生状態も経済状態も非常に厳しかった。そういう影響もあって、異常が発生する要因にもなっていたはずだ、というようなことも含めて主張されている。私たちとすればとんでもない見解が述べられているわけです。最近では新たに、ゲノム解析も含めて、ちゃんと提示していきたいということも紹介されています。

このような歴史を踏まえて、現在国は二世にどういう施策をとっているかというと、簡単にまとめると以下のようなことになります。

① 放影研の健康影響調査において遺伝的影響があるとの知見が得られていない。ということで、医療費補助などを実施する考えはない。ガンなどの検査項目の増加も考えていない、ということになっています。

② それから、ただ、不安を抱えている被爆二世も多いので、遺伝的影響は認められていないとの認識によって、それを解消するという視点から、健康診断だけは引き続き続けていこう、ということですね。

③ ただ、被爆二世も高齢化して、晩発性障害が発現する可能性がないとは言い切れないため、今後も調査研究は慎重に推移を見守っていきたい、というのが今の二世施策です。

具体的に全国で唯一行われている被爆二世健康診断はどんな中身なのかを簡単に紹介していますけど、厚労省が国の予算で各都道府県への委託事業としてやっているわけですけど、目的はいま紹介していることです。ただ問題なのは、この健康診断の結果は、個人が特定されないよう配慮したうえで、厚生労働省に送付されて、要は厚労省が集めて、原子爆弾被爆二世に関する研究に活用していく、とあることです。要するに個人に対する施策だけじゃなく、研究に使うよ、ということが名言されているという点が重大、大きな問題ではないかと思っています。

実際に検査項目はどんなものなのかはここで紹介しているように、専門家の方はこれを見られただけで、いかに簡便、簡単な検査なのかわかると思いますけど、X線も含めてそういう検査はない。ですから、多くの被爆二世の評価というのが、この検査だけでは、たいしたことはわからない、ということで、わざわざ休みをとってこういう検査に行くよりは、例えば会社勤めの人なんかであれば、会社の中で行われる健康診断を受けておいた方がよほど充実している、と。そういう評価が二世三世ではもっぱら共通した意見になっています。この被爆二世健康診断、どのくらいの人が受診しているかは、全国の受診者数は正確に調べる時間がなかったのですけど、たぶん、私の記憶では、全国で２万人ないし３万人の間ではないかなと思います。京都では、これは正確ですけど、２年前が１４８人、その次が１５９人。そういうレベルの受診者数になっています。

一方で、地方自治体独自の被爆二世政策というのを簡単に紹介します。今全国で行われている国の被爆二世検診は省略して、それ以外に、医療費の補助を実施している自治体があります。１９７７年に、東京都が始めています。７８年から横浜市。７９年からは神奈川県が始めています。それから、非課税世代に限定されていますけど大阪府の摂津市と吹田市でも行っています。東京や神奈川で行われている医療費の補助は、被爆者援護法のいわゆる健康管理手当、対象１１疾病と言われていますけど、これに該当する病気にかかって医療費を本人が負担した場合、その負担分を東京都なり横浜市、神奈川県で保障するということで、極々限られた地方自治体ですけど、そういう援護施策が行われているところがあります。

ちなみに東京都では、被爆二世の医療費補助を受けるためにどれくらいの割合の人が受けているかというと、８，５５３人というのが、２０２２年３月末の医療費補助を受けた人の人数だと東京の被爆者の会から聞いています。それから、神奈川県で約６，６００人と聞いています。これを被爆者数との比較でみると、東京都の被爆者の人数が約４，０００、神奈川県が約３，０００人です。ですからいまや被爆者を上回る二世の人たちが、医療費補助を受けていることが東京や神奈川では行われている。仮に全国で厚生労働省によって被爆二世も医療費の援助を受けられるようになると、それに対応する、例えば健康手帳のようなものが発行されれば、今、全国の被爆者数は１１万人くらいですから、２０万人以上、３０万人近い被爆二世・三世が、単純な計算ですけど、救済を受けることになる。それくらいのスケールの話だと思っています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　以下　次号会報に続く　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■ルポ　アメリカの核戦略　「核なき世界」はなぜ実現しないのか　　渡辺　丘　著

紹介　石角敏明（長岡京市）

岩波新書　９２４円(税別)

米ソ冷戦時代から、アメリカの「核抑止」についての考え方は、殆ど変化していない、ということを知らしめる内容である。世界の動きは「核兵器」は悪であり、廃棄されるべき武器であるという考え方が広まる中で、アメリカは「核の三本柱」政策を堅持し、巨額の資金を投資して核兵器の近代化を計ろうとしている。著者は「三本柱」といわれる「ＩＣＢＭ」「戦略爆撃機」「潜水艦」の基地を巡り、現地の声、そして、兵士・司令官の意見を紹介している。アメリカが「核兵器」に依存する姿勢がわかる。オバマ政権からトランプそしてバイデン政権へと「核政策」がどのように変遷していったのかも、検証をしている。

著者は核兵器最前線だけでなく、「アメリカのヒバクシャ、ハンフォード」を訪ねて健康問題を取り上げており、「守田さん」がアメリカ訪問活動の報告の中で、触れられていた「高校」のシンボルマーク問題・カフェの原爆を連想させる「メニュー」についても紹介されている。余り日本では知られていない事実であり、この本を機会に知って欲しいと願う。そして、私たちの会の会員である「宮本ゆき教授」の意見が記載されており、著書も紹介されている。「なぜ、アメリカで核なき世界の声が高まらないのか」現場からの声で理解はできる。

■ヤジと民主主義　　北海道放送報道部　著

紹介　石角敏明（長岡京市）

テレビのドラマの影響でしょうか？「警察官」の市民に対する制御・対応について、どこまで許されるのか、私たちの感覚が鋭く問われていることを教えてくれる本である。北海道で発生したこの事案、果たしてどれだけの人が関心をもって見ていたのか、そしてマスコミはどこまで警鐘を鳴らしたのか、２人の人が起こした裁判の取材を通じて、私たちの感覚の鈍さを鋭く指摘してくれる。以前は「当たり前」であったことが「そうでなく」なってきている現状、私たちの感覚の鈍さを反省させられる本である。民主主義の危機を感じている皆さん、もう一度、私たちの権利を守るためにも、何が必要か、どうすべきかを考えるために、手に取って頂きたい本である。

ころから　１８００円(税別)

Scrap book

■「はだしのゲンで生き方学んだ」
教材からの削除撤回要請　広島６団体

広島原爆を描いた漫画「はだしのゲン」が、広島市立の小中高校が取り組む「平和教育プログラム」の教材から削除されることについて、広島の被爆者団体や教職員組合など６団体は２１日、方針を決めた市教育委員会に、削除を撤回し、はだしのゲンを教育現場で取り扱うよう要請した。

広島県原爆被害者団体協議会の佐久間邦彦理事長（７８）は「私は被爆者だが、ゲンから生き方を学んだ。削除決定は我慢ならない」と強調。これに対し、市教委の高田尚志指導第１課長は「子どもたちに家族の大切さを感じてもらうため、どの教材がいいか探り、研究した経緯がある」と釈明した。

平和教育プログラムは２０１３年度から始まり、市教委が作成した「ひろしま平和ノート」を教材にしている。はだしのゲンは小３と高１の学習部分で登場。小３では身重の母親のため、ゲンたちが浪曲のまねごとをしてお金を稼ぎ、栄養不足を補うため、池でコイを釣る場面が引用された。

市教委がプログラムの内容を検討する中で「浪曲は児童の実態に合わない」「コイを盗む描写は誤解を与える恐れがある」との意見があり、２３年度から家族を失った被爆者の体験と継承の内容に変更することにした。

２１日の要請では「取り上げる学年や場面を変えることで対応できる」という声も上がった。　　（２０２３年2月２１日　毎日新聞）

■被爆者との対話　ＡＩで次世代へ　収録映像で質問に対応
ＮＨＫ広島放送局開発　伝承のツールに

人工知能（ＡＩ）を活用し、画面上の被爆者と被爆体験や戦後の暮らしについて疑似対話ができるようにした「被爆証言応答装置」をＮＨＫ広島放送局（広島市中区）が開発した。質問されると、あらかじめ収録した多様なパターンのインタビュー映像からＡＩが選んで再生する仕組み。最新技術を活用し、被爆者なき将来を見据えた体験証言の「リアルさ」を模索する。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館（同）で１月下旬、タレント・作家の加藤シゲアキさんをゲストに報道機関向け発表会があった。

縦約２メートル、幅約１メートルの画面に梶本淑子さん（９２）＝西区＝の等身大の姿が映し出される。マイクに向かって「亡くなった家族や友人を思い出すことはありますか」と質問すると「しょっちゅうあります。困った時とか…」と答えた。

装置は、梶本さんが１０時間以上をかけて約９００の質問に答えたインタビュー映像を内蔵する。１４歳の時に爆心地から２・３キロで被爆して大けがを負いながら、同級生らと生き抜いた体験。戦後の生活や最近の楽しみ…。１０７の設問と答えを用意している。それ以外の質問も可能だが「分からない」などと答えることがあるという。

ＡＩを活用した装置のアイデアは、若手局員から出た。２０２１年秋に開発を開始。専門家の助言を受けながら今年１月に完成した。生田聖子チーフ・プロデューサー（４６）は「対話の疑似体

験を通して、被爆者の思いや言葉は利用者の心に響くのではないか」と狙いを語る。

梶本さんは「最初は抵抗感もあったが、被爆体験を伝えるツールの一つができてうれしい」と話す。同時に「利用者に使い方を委ね過ぎると、いたずら目的や不適切な質問がされ、それに私が答えたことになってしまわないか」。自身の思いとは違うＡＩの回答が「本人の肉声」として独り歩きすることも懸念する。

ＮＨＫは、悪用防止も含めて活用法を探るため、高校生ら５０人以上に体験してもらった。梶本さんの体験を語り継ぐ市の被爆体験伝承者が同席し、ＡＩの回答に補足で解説した。ＮＨＫによると「実際に対話しているようで感情移入しやすかった」との意見があった。ただ、ＡＩが完全に本人に成り代わることはできない。回答は比較的簡潔なこともあり「体験をじっくり聞くことができるための工夫も必要」といった注文もあった。

ＮＨＫは開発プロセスを追った番組を３月１８日午後９時からＢＳ１で放送予定。装置の設置場所や活用法、梶本さん以外の被爆者にも広げていくかどうかは今後検討するという。

（２０２３年２月２０日　中國新聞）

バイバイ原発3.11きょうと

2023.3.11(土)13:30

円山公園音楽堂

編集後記

▼１月１８日の例会で、庄田政江さんに被爆体験伝承者としての実演をしていただきました。講話を聴いたみなさんからは「素晴らしい」との評価が寄せられました。それに対するお礼のメッセージを書かれましたので会報にも掲載しました。これから伝承講話の機会がどんどん増えていくことを期待します。▼山根和代さんが「科学者、日本の海洋投棄計画に挑戦」と題した外国雑誌記事の和訳を投稿されました。想像以上に、海外で放射能汚染水の投棄に対する強い批判のあがっていることが分かります。海洋投棄は間もなく今年の春から夏にかけて実行開始が予定されていることです。反対運動を強めましょう。▼今年の総会（５月１３日）の記念講演に明星大学の竹峰誠一郎先生にお願いすることになりました。マーシャル諸島を中心に世界のヒバクシャの実情と課題を研究されてきた方です。あわせて、世界のヒバクシャの二世・三世についても語っていただくことになりました。私たちの活動に直接結びつけて学びたいと思います。（平）

２０２３年3月（弥生）行事カレンダー

月	日	曜	行　　事
３	１	水	３．１ビキニデー集会（１３時・オンライン） *アメリカの水爆実験で第五福竜丸等被曝（１９５４年）* *朝鮮の三・一独立運動（１９１９年）*
	２	木	原発賠償京都訴訟控訴審第１７回期日（１４時３０分・大阪高裁）
	３	金	ひな祭り　キンカン行動
	４	土	Story telling Tomorrow 企画（１４時・京都教育文化センター）
	５	日	
	６	月	啓蟄　６．９行動
	７	火	
	８	水	（国連）国際女性デー
	９	木	６・９行動
	１０	金	*東京大空襲（１９４５年）*　キンカン行動
	１１	土	東日本大震災・福島第一原発事故発生（２０１１年） バイバイ原発３・11 きょうと（１３時３０分・円山公園音楽堂）
	１２	日	
	１３	月	*大阪大空襲（１９４５年）*
	１４	火	ホワイトデー
	１５	水	京都「被爆二世・三世の会」例会（１８時３０分・ラボール京都&ZOOM）
	１６	木	
	１７	金	キンカン行動
	１８	土	
	１９	日	戦争法廃止をめざす１９日行動（16 時３０分・京都市役所前）
	２０	月	
	２１	火	春分の日 国際人種差別撤廃デー
	２２	水	
	２３	木	
	２４	金	キンカン行動
	２５	土	
	２６	日	
	２７	月	
	２８	火	*アメリカ・スリーマイル島原発事故（１９７９年）*
	２９	水	
	３０	木	
	３１	金	統一地方選挙（前半）告示 キンカン行動